

令和8年（2026年）3月10日

日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会  
公開シンポジウム「教育データのさらなる利活用の促進について考える」

# 初等教育における 教育データと生成AIの利活用 の教員継続調査について

楠見 孝

日本学術会議連携会員  
京都大学 国際高等教育院

本研究の一部は、楠見孝・西川一二・齊藤貴浩・栗山直子 (2025). 「小学校教員における生成AIと学習データ利活用の継続調査」 日本教育工学会 2025年秋季全国大会で報告している

# はじめに

- GIGAスクール構想，コロナ禍と教育DXの進展により，教育・学習活動のデジタル化が進み，教育データが蓄積
  - 教育データの利活用は，個別最適化教育，学習者へのフィードバック，エビデンスに基づく教育改善，教育政策，研究のために重要
  - 個人情報保護，企業の関与，生成AIの活用についての検討も必要
- 本発表では，本分科会の提言(2020)を踏まえて，教育データ利活用(調査1)と生成AI活用(調査2)に対する教員の態度を4年間の継続調査の結果に基づき，教育データの利活用のさらなる促進に向けて検討

# 調査1：学習データの利活用に対する教員の態度

- 学習データの利活用について、本分科会では個人情報保護等も含む議論を行い、提言を2020年にまとめ、その後も議論を続けていた。
- しかし、児童生徒の学習データの利活用についての教員や保護者の態度の十分な調査は行われていない。
- そこで、本調査では、2022年と2023年の3月に小学校教員と保護者を対象に、1, 2波、2024年と2025年の3月には小学校教員に対して、3, 4波のオンライン調査

# データ利活用の受容・拒否の規定因

- 分析の主体：学校, 国, 企業
- 誰のため：学校, 国, 企業, 学習者と保護者, 研究者
- 目的：個別最適化, 進路選択, 教育改善, 学習者の振り返り・学習計画, 研究
- 匿名化：あり, なし
- 期間：義務教育期間9年, 生涯
  
- 規定因によるタイプ分け

# 方法

## ◆調査時期および調査方法

2022年, 2023年, 2024年, 2025年3月に, 全国のモニターにインターネット調査を実施

## ◆調査参加者

### 教員

2022年調査 小中学校教員 633 (男365, 女268) 人, (小学校357, 中学校276人)

- 23-59(平均43.0)歳, 教諭80%, 常勤講師3%, 主幹/指導教諭3%, 教頭/副校長5%, 校長4%

2023年調査 小学校教員 407 (男205, 女202) 人

- 23-62(平均46.9)歳, 教諭78%, 常勤講師5%, 主幹/指導教諭4%, 教頭/副校長3%, 校長9%

2024年調査 小学校教員 619 (男286, 女333) 人

- 23-62(平均43.4)歳, 教諭81%, 常勤講師3%, 主幹/指導教諭4%, 教頭/副校長4%, 校長7%

2025年調査 小学校教員 523 (男245, 女278) 人

- 23-62(平均45.8)歳, 教諭77%, 常勤講師4%, 主幹/指導教諭6%, 教頭/副校長6%, 校長8%

### 保護者

2022年調査 512(父親300, 母親212)人

- 子どもは, 小1-5年の各学年94-113人 男女児童ほぼ半数. 32-61(平均46.0)歳.
- 子どもの在籍校: 公立94%, 私立5%, 国立1%
- 職業: 民間事務職16%, 管理職14%, 専業主婦18%, パート13%

2023年調査 523(父親300, 母親223)人(前回回答者337人)

## 学校と企業の学習データ利活用に対する教員の賛否の比率(%)の推移

項目		強く反対	反対	どちらかと反対	どちらかと賛成	賛成	強く賛成
学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して、一人一人に最適な教育	2022	2	4	15	44	28	7
	2023	3	5	11	44	27	11
	2024	3	7	16	34	28	13
	2025	4	5	12	43	25	11
学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを匿名化して集計して、教育の改善	2022	2	6	18	46	24	5
	2023	3	6	16	47	22	6
	2024	3	6	16	41	28	7
	2025	4	5	17	46	21	7
学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して一人一人の進路指導	2022	2	4	17	45	27	7
	2023	3	4	14	43	27	8
	2024	4	7	16	37	26	11
	2025	3	8	13	44	23	9
IT、教育関連の会社が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して、一人一人に最適な教育	2022	—	—	—	—	—	—
	2023	4	5	16	40	27	8
	2024	4	5	15	38	28	11
	2025	4	5	17	42	23	9
IT、教育関連の会社が、コンピュータ利用によって記録される学習データを、匿名化して集計して、教育の改善	2022	—	—	—	—	—	—
	2023	5	5	22	43	19	6
	2024	4	6	16	43	25	7
	2025	5	5	18	44	22	6

(どちらかという)  
賛成が7-8割、  
変化は小

匿名化と  
一人一人への最適化の  
差は小

# 児童家族, 国による学習データ利活用に対する教員の賛否の比率 (%) の推移

項目		強く反対	反対	どちらかと いうと反対	どちらかと いうと賛成	賛成	強く賛成
児童生徒や家族が, 学校でのコンピュータ利用による9年間の学習データを閲覧して, 学習履歴の振り返りや学習計画	2022	3	5	18	41	25	10
	2023	1	6	11	44	27	11
	2024	2	6	16	36	27	13
	2025	3	6	15	42	25	10
児童生徒や家族が, 小中高大から卒業後の生涯にわたる学習データを閲覧して, 学習履歴の振り返りや学習計画	2022	3	6	19	40	23	9
	2023	1	4	13	45	25	11
	2024	2	6	18	36	27	12
	2025	3	5	18	40	23	10
国が, コンピュータ利用によって記録される9年間の学習データを匿名化して国全体で集めて, 教育の改善や研究	2022	3	10	20	39	22	7
	2023	4	7	16	41	23	9
	2024	4	7	17	36	25	11
	2025	5	9	17	38	22	9
国が, 小中高大から卒業後の生涯にわたる学習データを, 匿名化して国全体で集めて, 教育の改善や研究	2022	6	9	21	39	19	6
	2023	5	9	17	37	23	9
	2024	4	8	18	35	25	11
	2025	5	9	18	39	20	9
学校が, AIの顔認識技術を使って, 表情や視線を分析して, 授業に集中できない子, 悩みを抱えている子を発見して指導	2022	4	7	24	40	19	6
	2023	5	7	19	42	20	7
	2024	4	9	22	35	21	9
	2025	5	9	20	41	18	7

9年間と生涯データの差は小

児童家族と国利用の差は小

# 学習データ利活用に対する教員と保護者の賛否の比率(%)の比較(2023)

項目		強く反対	反対	どちらかと		賛成	強く賛成
				いうと反対	いうと賛成		
小中学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して、一人一人に最適な教育	教員	3	5	11	44	27	11
	保護者	0	2	11	50	29	8
小中学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを、匿名化して集計して、教育の改善	教員	3	6	16	47	22	6
	保護者	1	2	9	55	28	7
小中学校が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して一人一人の進路指導	教員	3	4	14	43	27	8
	保護者	0	2	9	51	28	9
児童生徒や家族が、学校でのコンピュータ利用による9年間の学習データを閲覧できるようにして、学習履歴の振り返りや学習計画を立てる	教員	1	6	11	44	27	11
	保護者	1	3	11	53	25	7
国が、コンピュータ利用によって記録される9年間の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究	教員	4	7	16	41	23	9
	保護者	1	2	12	53	25	7
児童生徒や家族が、小中高大から卒業後の生涯にわたる学習データを閲覧できるようにして、学習履歴の振り返りや学習計画を立てる	教員	1	4	13	45	25	11
	保護者	1	3	12	53	24	7
国が、小中高大から卒業後の生涯にわたる学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究	教員	5	9	17	37	23	9
	保護者	1	3	11	53	26	6
小中学校が、AIの顔認識技術を使って、表情や視線を分析して、授業に集中できていない子ども、悩みを抱えている子どもを発見して指導	教員	5	7	19	42	20	7
	保護者	3	4	13	53	23	5
IT、教育関連の会社が、コンピュータ利用によって記録される学習データを分析して、一人一人に最適な教育	教員	4	5	16	40	27	8
	保護者	1	3	13	52	24	6
IT、教育関連の会社が、コンピュータ利用によって記録される学習データを、匿名化して集計して、教育の改善	教員	5	5	22	43	19	6
	保護者	1	5	12	53	22	7

教員の反対がやや多

# 学習データ利活用に対する教員の賛否判断に基づく因子分析による背景要因の探索

	1	2	3	4
小中学校が、児童生徒のコンピュータ利用などによって、記録される学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育をおこなう	0.975			
小中学校が、児童生徒のコンピュータ利用などによって、記録される学習データを学校で分析して、一人一人の進路指導に役立てる	0.878			
小中学校が、児童生徒のコンピュータ利用などによって記録される学習データを、匿名化して学校で集計して、教育の改善に役立てる	0.627			
小中学校が、人工知能の顔認識技術を使って、児童生徒の表情や視線を分析して、授業に集中できていない子ども、悩みを抱えている子どもを発見して指導に役立てる	0.377			
児童生徒やその家族が、小中学校でのコンピュータ利用などによる9年間にわたる学習データを閲覧できるようにして、~や学習の計画を立てることに役立てる	-0.008			
児童生徒やその家族が、小中高大から卒業後の生涯にわたる多くの学習データを閲覧できるようにして、自ら学習の履歴の振り返りや学習の計画を立てることに役立てる	-0.006			
教育や情報関連の会社が、児童生徒のコンピュータ利用などによって記録される学習データを、匿名化して集計して、教育の改善に役立てる	-0.095			
教育や情報関連の会社が、児童生徒のコンピュータ利用などによって、記録される学習データを会社で分析して、一人一人に最適な教育をおこなう	0.066			
国が、小中高大から卒業後の人の生涯にわたる多くの学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究に役立てる	0.011			
国が、小中学校での児童生徒のコンピュータ利用などによって、記録される9年間にわたる学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究に役立てる	0.01			

学校活用  
への期待

監視・生体情報  
利用への抵抗

児童家族  
活用への期待

民間企業への  
警戒/受容

国利用への信頼  
受容,期待

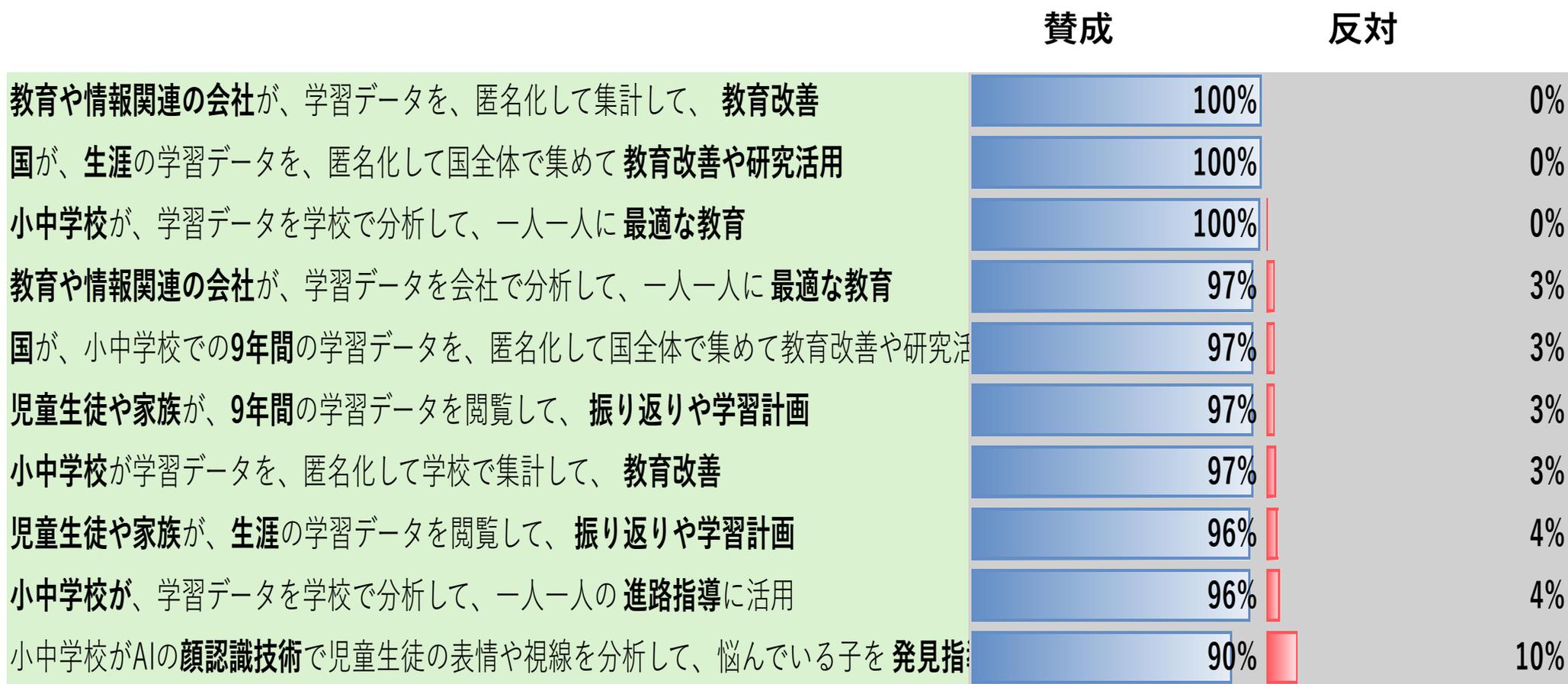
賛否の判断の要因は、活用目的よりも主体別

(2025年, N=523, 最尤法, プロマックス回転)

	1	2	3	4
1	1	0.675	0.589	0.544
2	0.675	1	0.567	0.651
3	0.589	0.567	1	0.652
4	0.544	0.651	0.652	1

# 潜在クラス分析による賛否パターンの類型化

## 教員：すべての活用に賛成群（受容型）（50%）



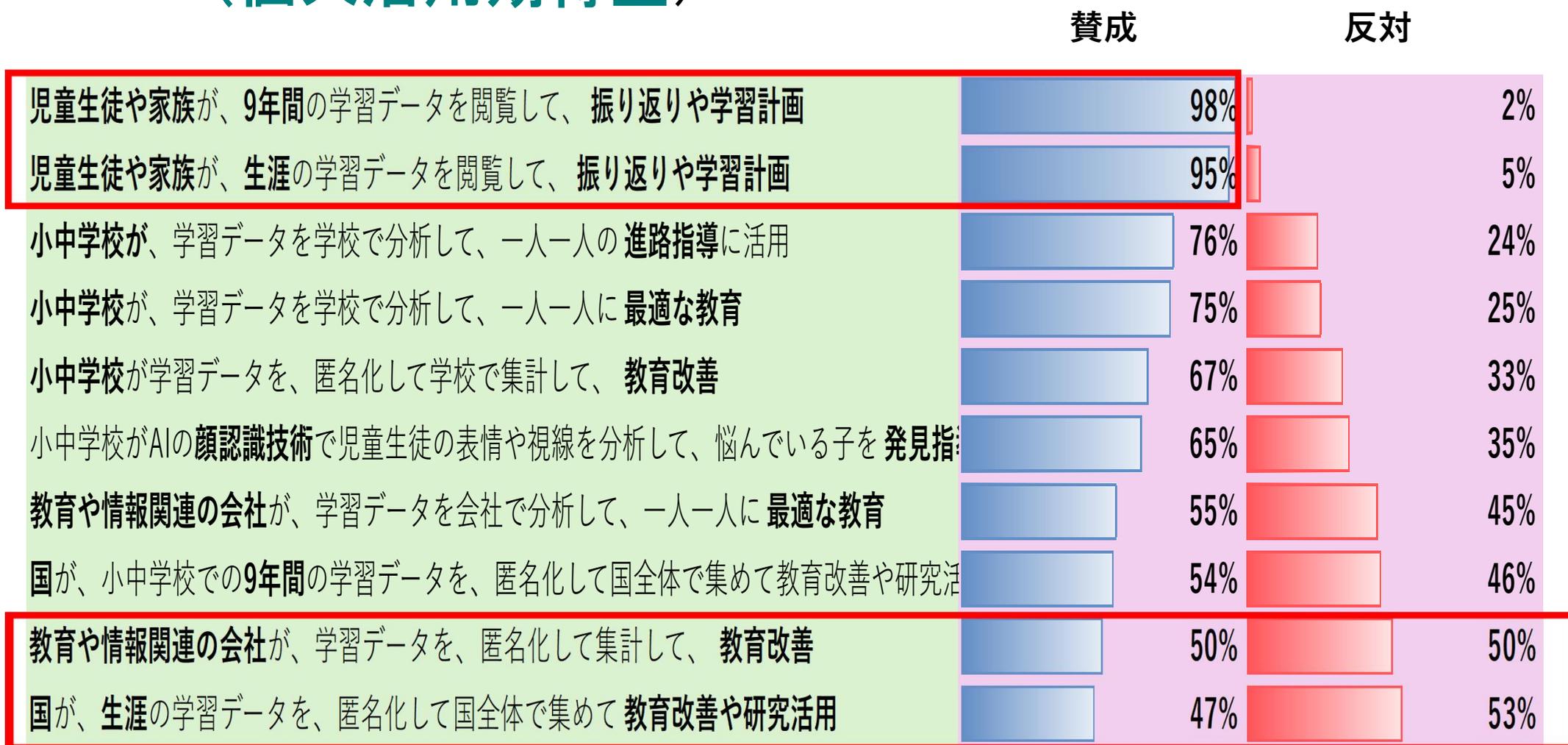
# 保護者：すべての活用に賛成群（受容型）（68%）

	賛成	反対
IT、教育関連の会社が、学習データを、匿名化して集計して教育改善	100%	0%
国が、小中学校での9年間の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育改善や研究	100%	0%
小中学校が学習データを、匿名化して学校で集計して教育改善	99%	1%
小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育	99%	1%
国が、生涯の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究	99%	1%
児童生徒や家族が、小中学校での9年間の学習データを閲覧して、振り返りや学習計画	99%	1%
IT、教育関連の会社が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育	99%	1%
小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人の進路指導に活用	99%	1%
児童生徒や家族が、生涯の学習データを閲覧できるようにして、振り返りや学習計画	99%	1%
小中学校がAIの顔認識技術で児童生徒の表情や視線を分析して、悩んでいる子どもを発見指導	94%	6%

教員  
(50%)  
より  
多

# 教員：個人活用賛成, 国や会社分析反対群 (24%)

## (個人活用期待型)

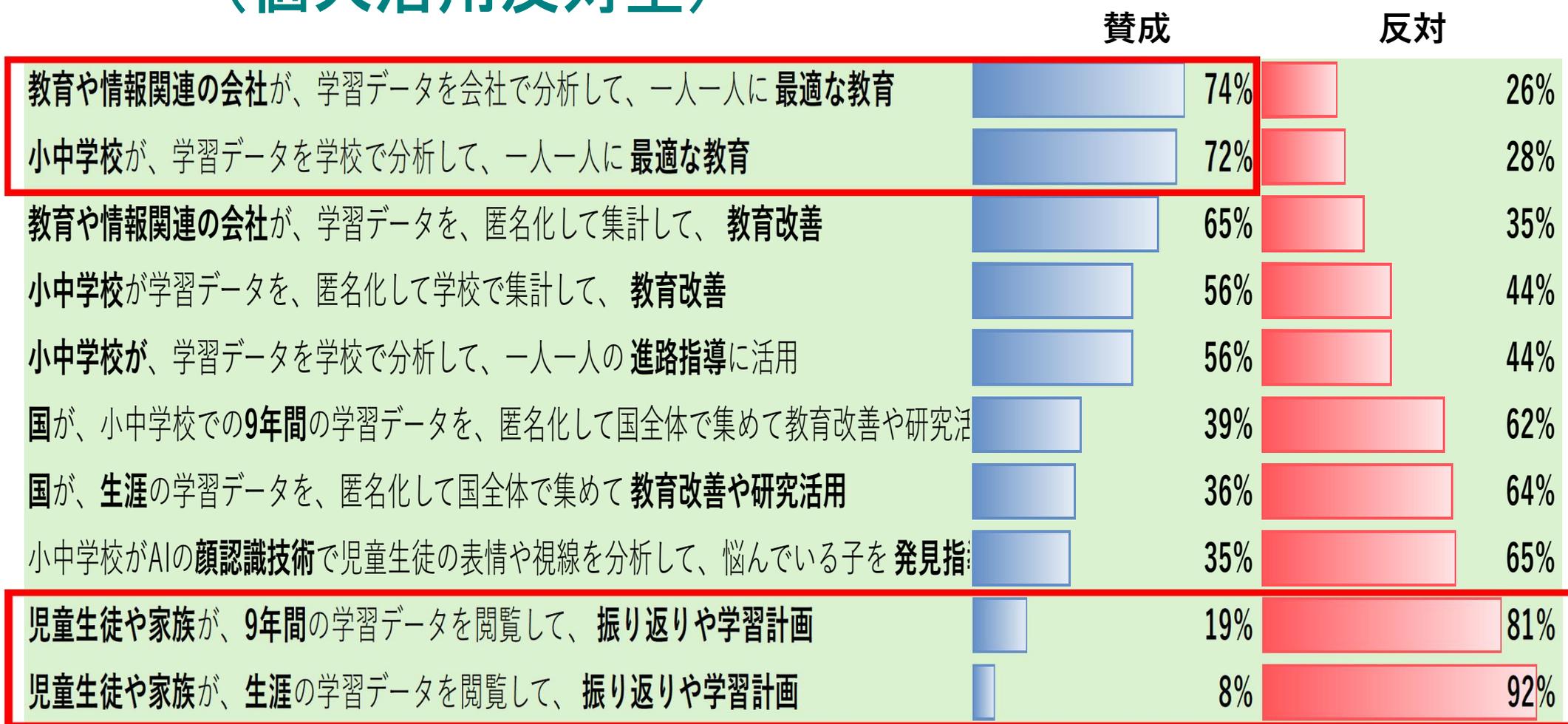


# 保護者：個人活用賛成, 会社分析反対群（18%） （個人活用期待型）

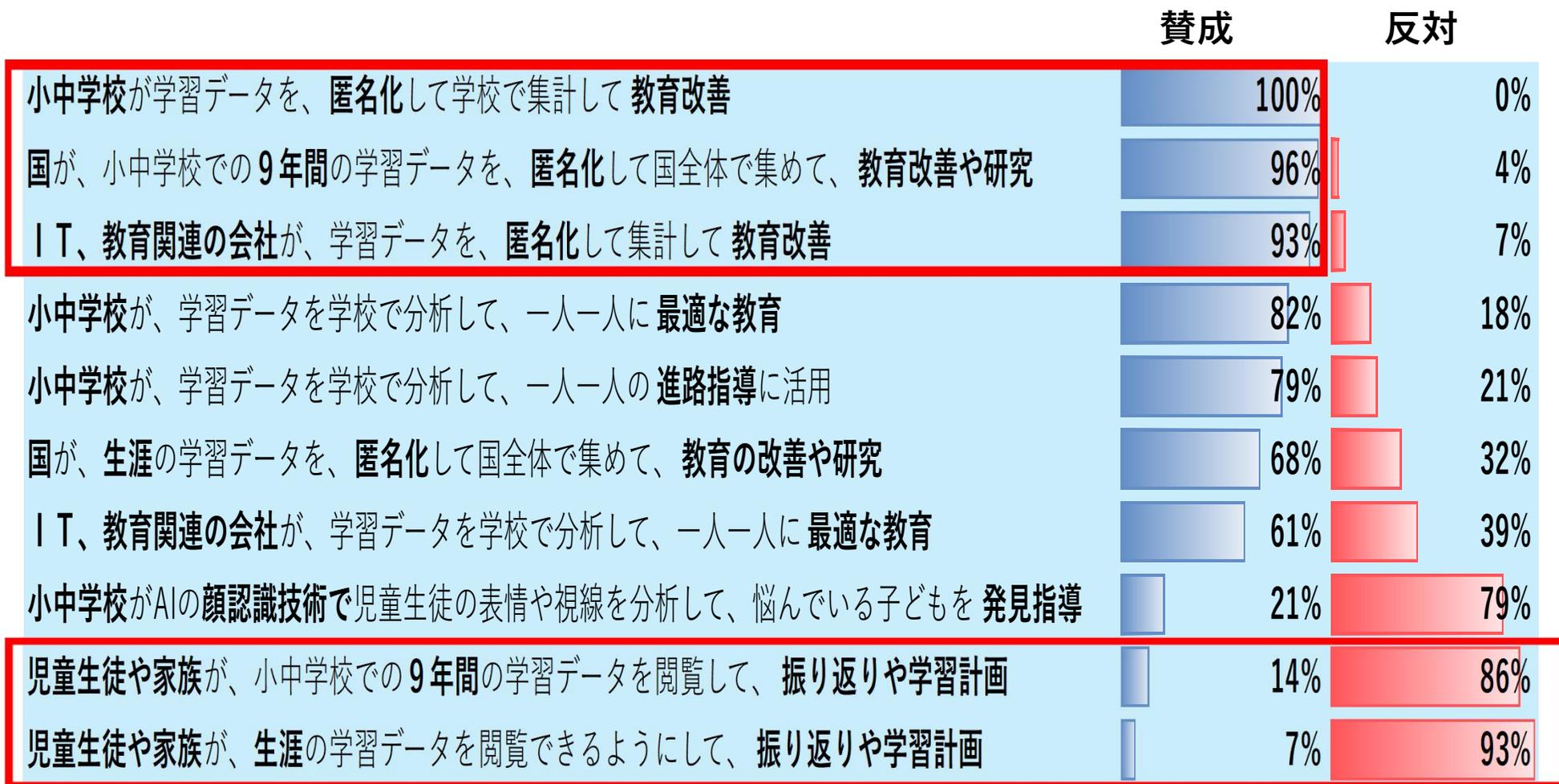
	賛成	反対
児童生徒や家族が、小中学校での9年間の学習データを閲覧して、振り返りや学習計画	84%	16%
児童生徒や家族が、生涯の学習データを閲覧できるようにして、振り返りや学習計画	81%	19%
小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人の進路指導に活用	80%	20%
小中学校がAIの顔認識技術で児童生徒の表情や視線を分析して、悩んでいる子どもを発見指導	75%	25%
小中学校が学習データを、匿名化して学校で集計して教育改善	74%	26%
小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育	67%	33%
国が、小中学校での9年間の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育改善や研究	62%	39%
国が、生涯の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究	59%	41%
IT、教育関連の会社が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育	53%	47%
IT、教育関連の会社が、学習データを、匿名化して集計して教育改善	41%	59%

教員  
(24%)  
と  
比べ  
やや  
少

# 教員：最適教育に賛成，個人活用に反対群（15%） （個人活用反対型）



# 保護者：教育改善に賛成，個人活用に反対群（5%） （個人活用反対型）



教員  
(15%)  
より  
少

# 教員：多くの活用に反対群（不信型）（10%）

賛成

反対

国が、小中学校での9年間の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育改善や研究



31%



69%

児童生徒や家族が、小中学校での9年間の学習データを閲覧して、振り返りや学習計画



31%



69%

教育や情報関連の会社が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育



19%



81%

小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人の進路指導に活用



19%



81%

国が、生涯の学習データを、匿名化して国全体で集めて、教育の改善や研究



13%



88%

児童生徒や家族が、生涯の学習データを閲覧できるようにして、振り返りや学習計画



13%



88%

小中学校がAIの顔認識技術で児童生徒の表情や視線を分析して、悩んでいる子どもを発見指導



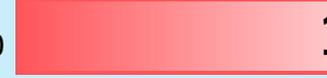
13%



88%

小中学校が学習データを、匿名化して学校で集計して教育改善

0%



100%

教育や情報関連の会社が、学習データを、匿名化して集計して教育改善

0%



100%

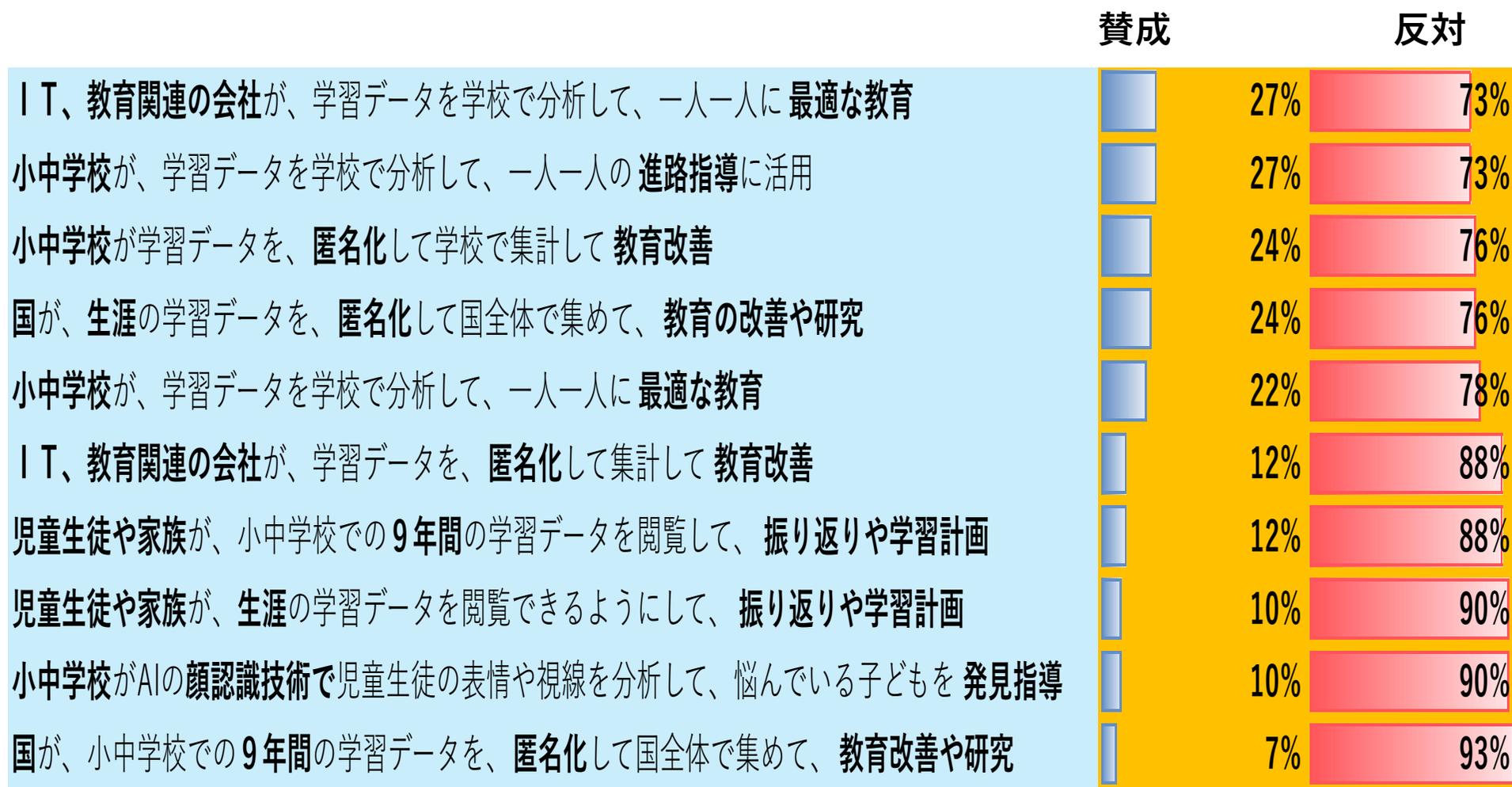
小中学校が、学習データを学校で分析して、一人一人に最適な教育

0%



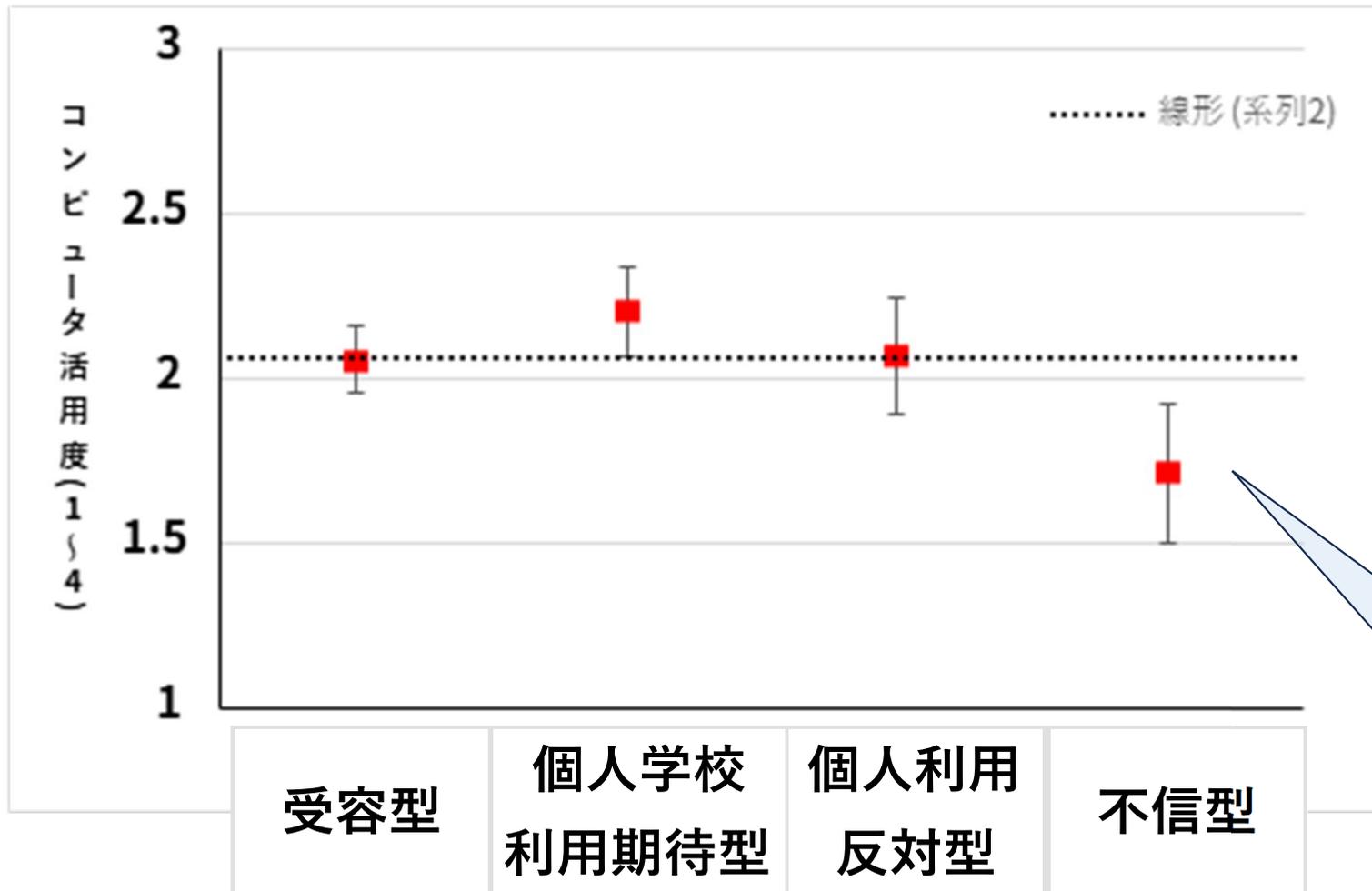
100%

# 保護者：多くの活用に反対群（不信型）（8%）



教員  
(10%)  
と同  
程度

# 教員のデータ利活用賛否タイプ別のPC活用度



下記の4項目の平均

(1: 経験なし~4: いつも)

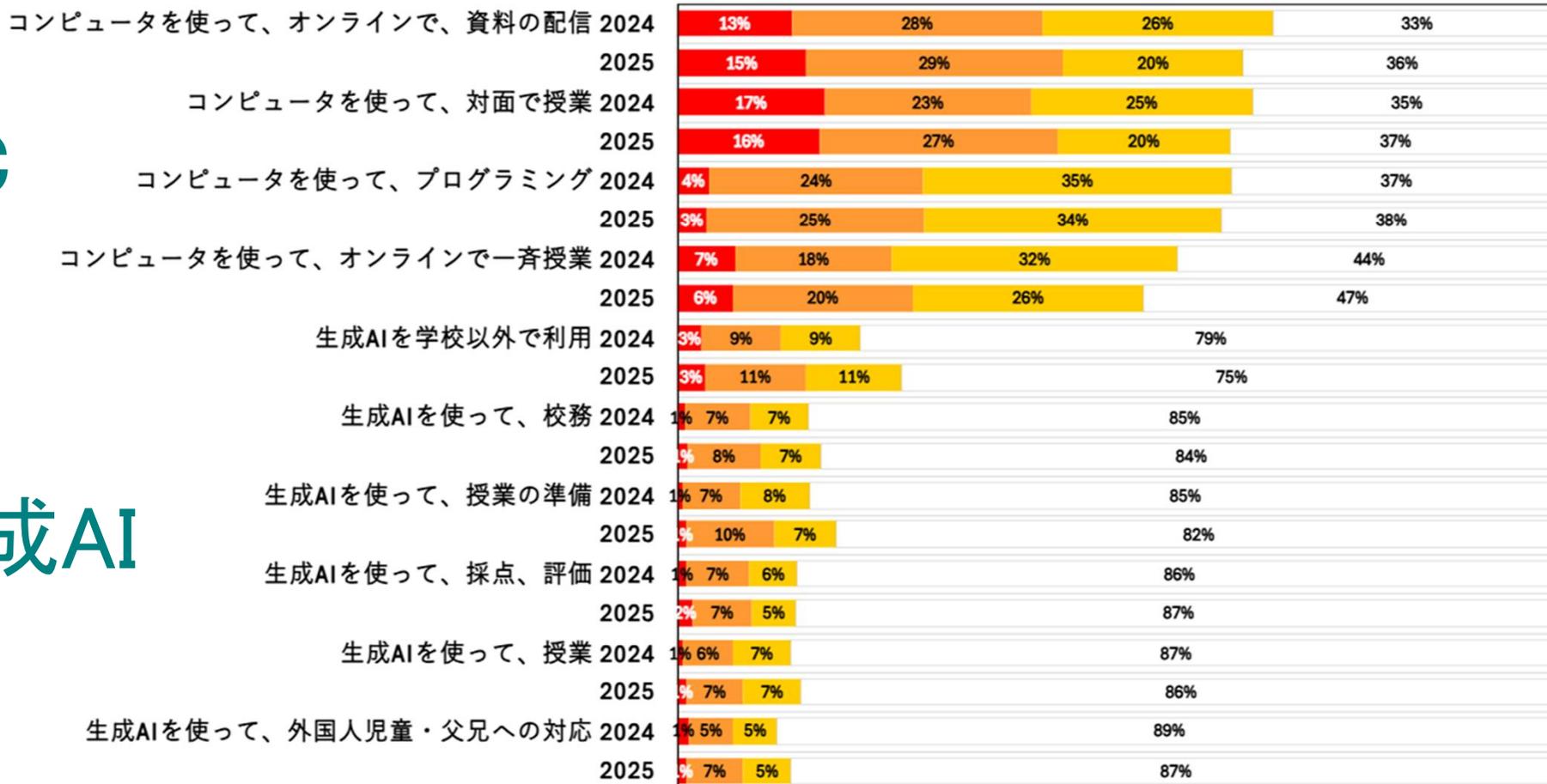
- 対面授業
- オンライン授業
- オンラインで資料配信
- プログラミング

不信型は  
PC活用度  
が低い

# 教員のPCと生成AI活用の経験率

■ いつも経験している    ■ ときどき経験している    ■ 過去に経験がある    □ 経験はない

PC



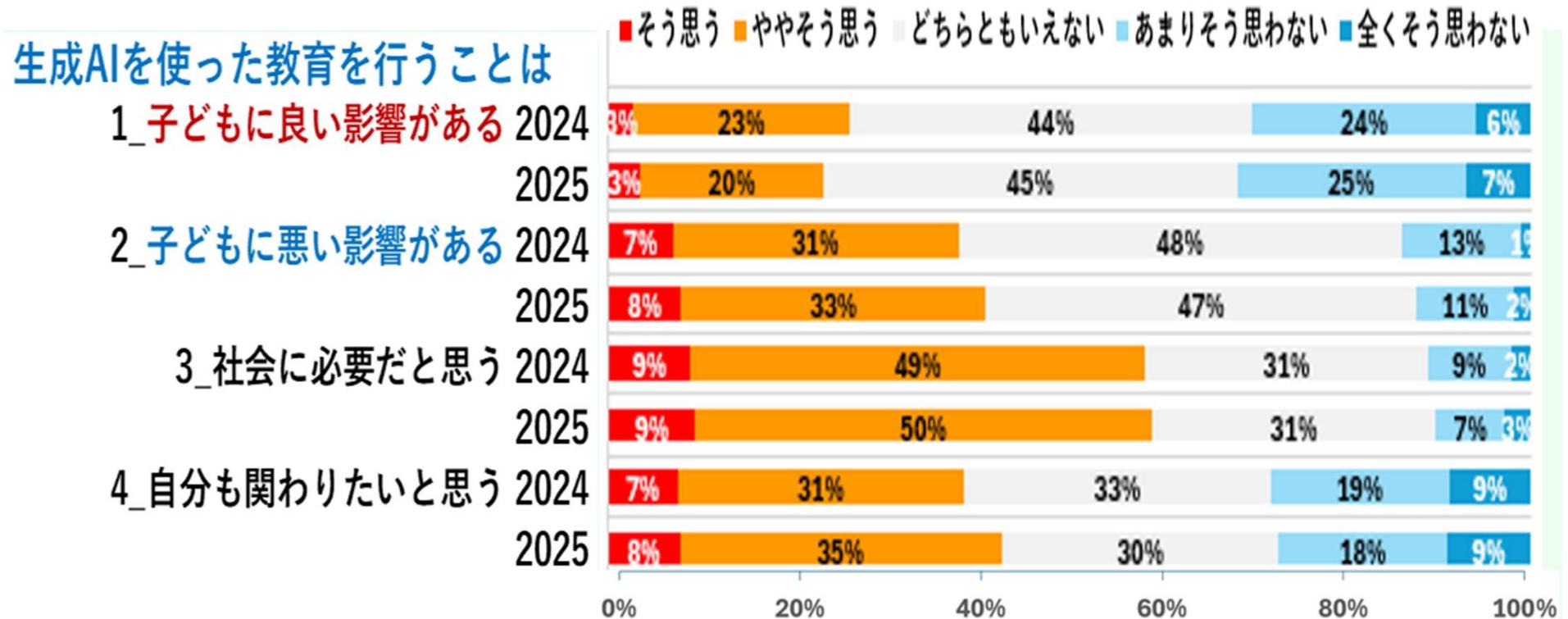
生成AI

## 調査2: 小学校教員における生成AIの活用への 賛成度, 期待と意欲

— 文部科学省の暫定ガイドラインに基づくweb調査による検討 —

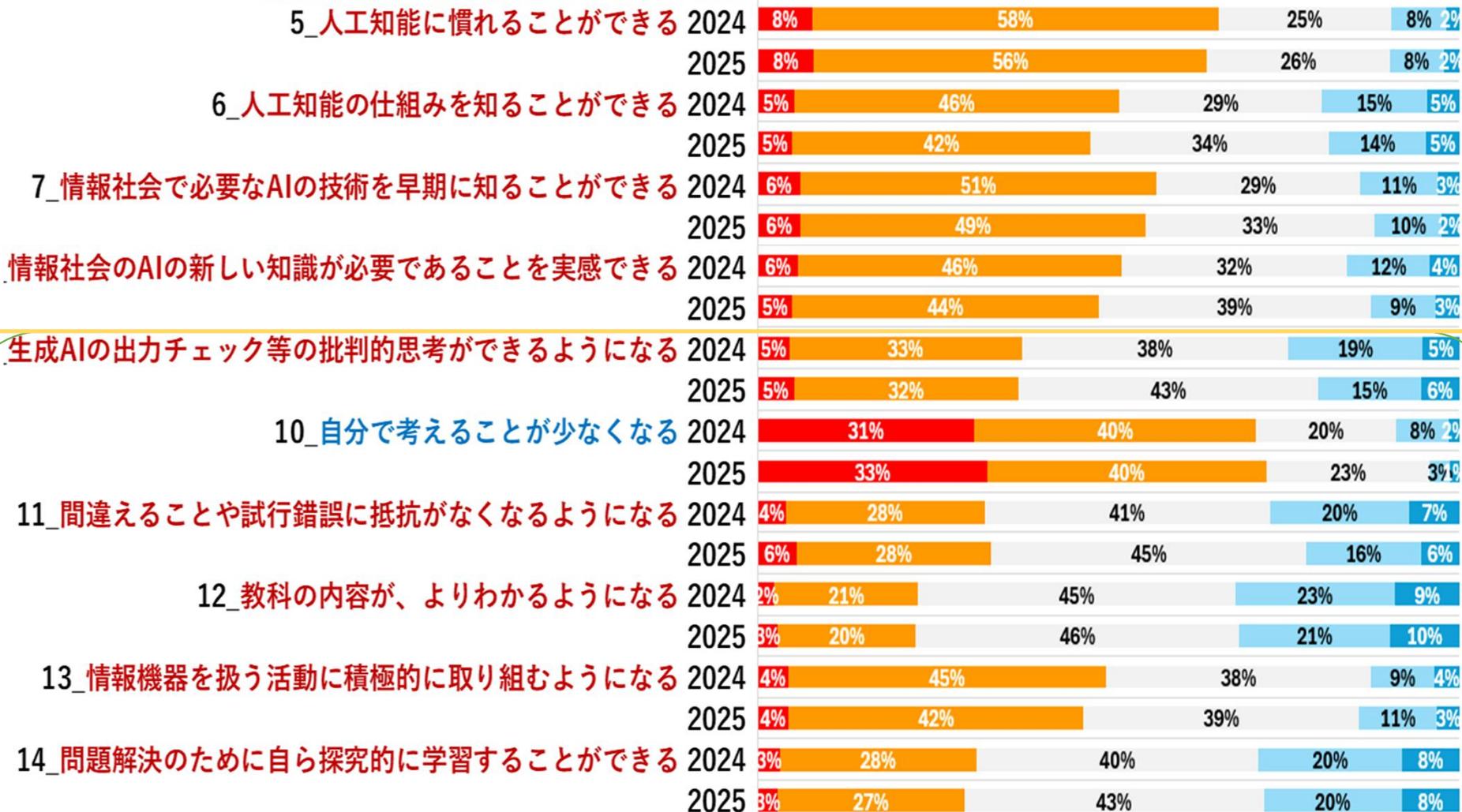
- 生成AIの教育利用は, 文部科学省が2023年7月に策定 (2024年12月に改訂) した「**初等中等教育段階における生成AIの利用に関するガイドライン**」に基づき, 一部の学校で実施.
- 一方で, **思考力の低下や誤情報への懸念**
- 本調査では, データ利活用調査と同時に, 小学校教員を対象に, 生成AIの教育活用経験や賛否, 期待, 将来の活用意欲について, 2024, 2025年と継続調査を実施
- **学習データの利活用への賛否との関連**も検討

# 生成AIの教育活用への全体的期待



# 生成AIの教育活用への期待と懸念

生成AIを使った教育によって子どもは

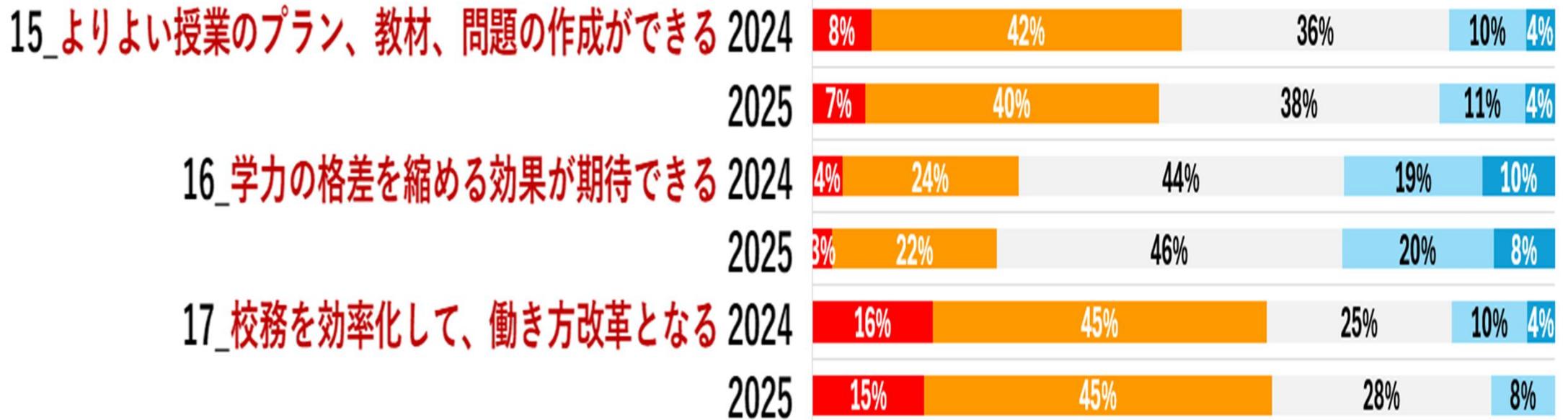


人工知能理解促進

学習全体への波及効果

# 生成AIの教師支援への期待

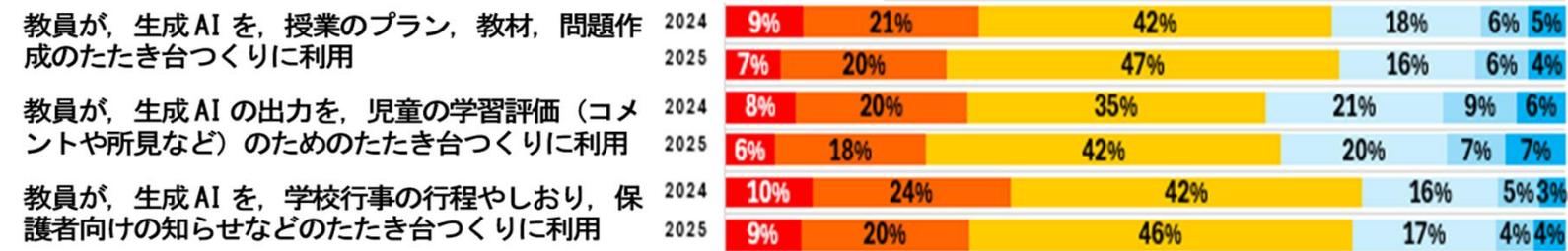
生成AIを使った教育によって教員は



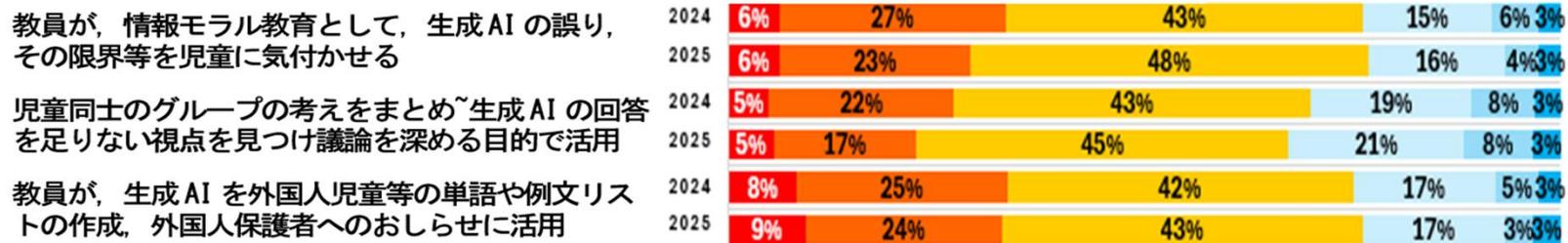
# 文科省のガイドラインに基づく生成AI活用法に対する賛否(%)と因子分析結果

■ 強く賛成 ■ 賛成 ■ どちらかという賛成 ■ どちらかという反対 ■ 反対 ■ 強く反対

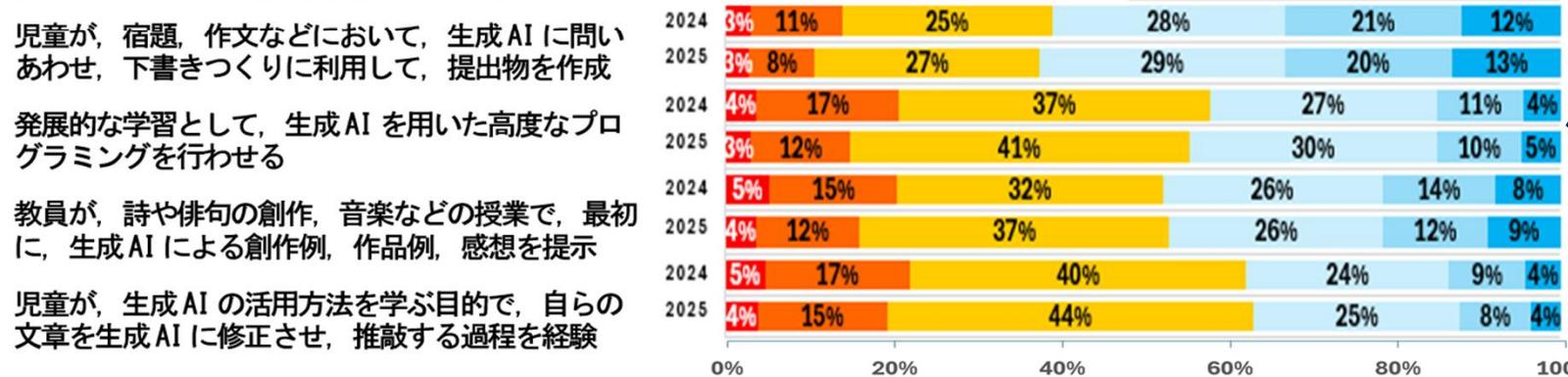
第1因子：教員の仕事の効率化（寄与率 50.0%,  $\alpha = .90$ ）



第2因子：新たな授業法、外国人児童への活用（寄与率 8.3%,  $\alpha = .80$ ）

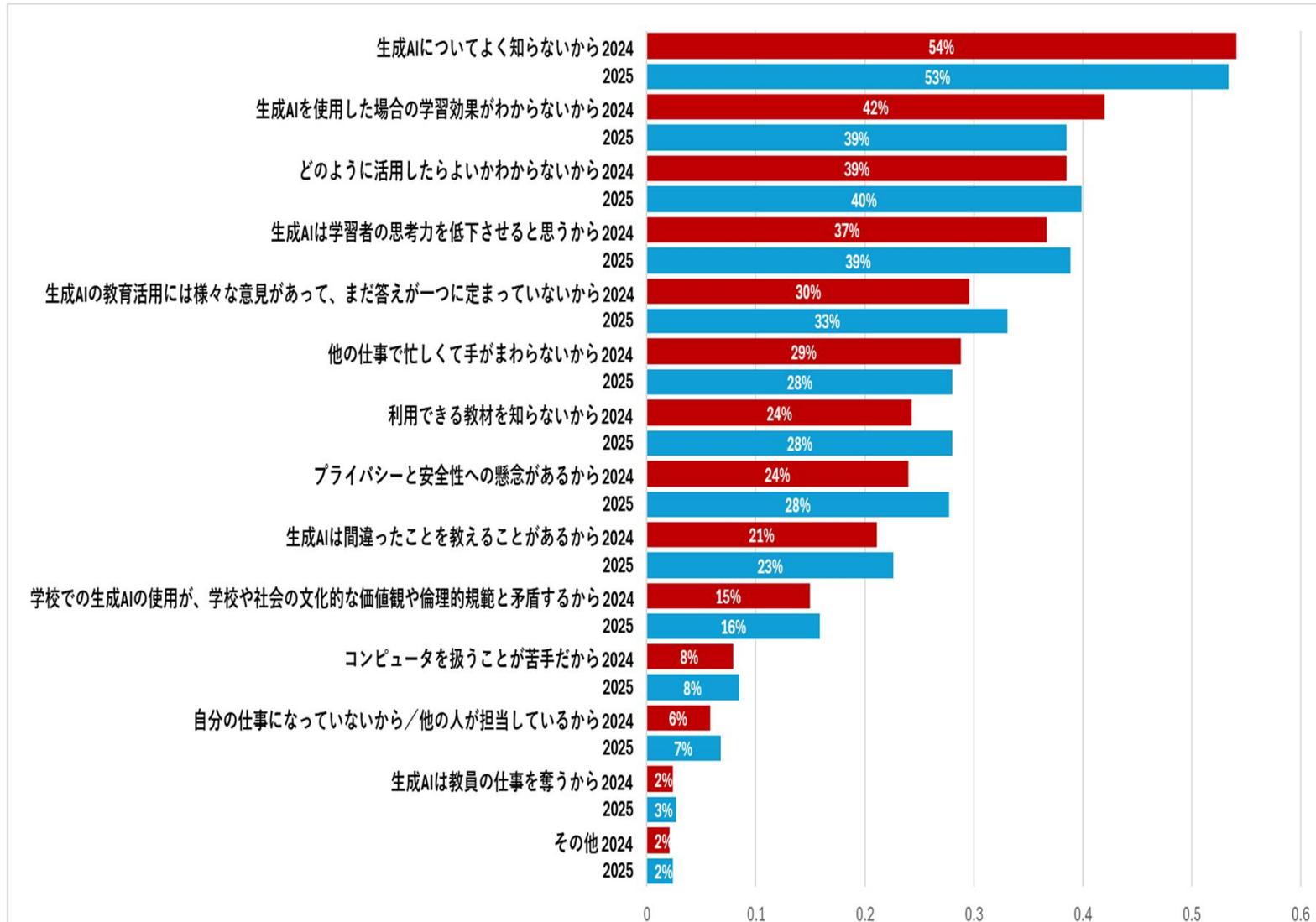


第3因子：児童の創作活動への活用（寄与率 7.2%,  $\alpha = .83$ ）



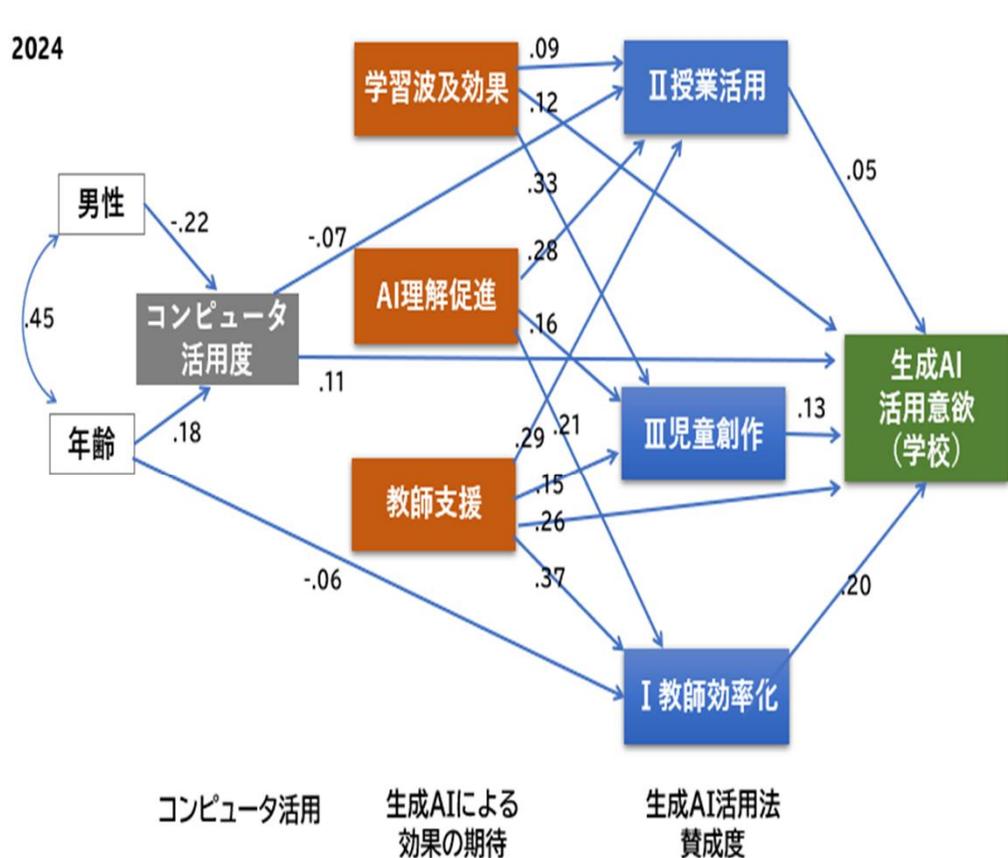
創作活動への反対がやや多い

# 生成AIを教育に活用したくない理由(小学校教員523人)

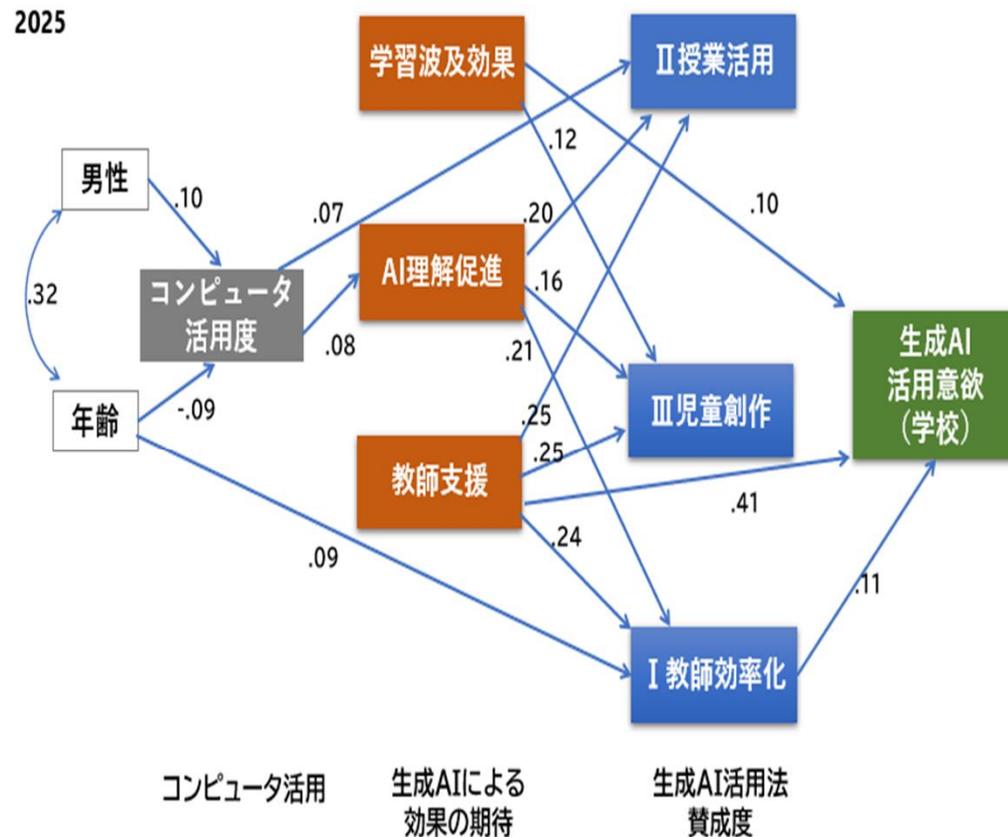


# 生成AI活用意欲に及ぼす要因：パス解析

(小学校教員523人)



$\chi^2=37.905, p=.009, CFI=.992, RMSEA=.038$



$\chi^2=43.046, p=.005, CFI=.989, RMSEA=.043$

# データ利活用賛成度と生成AI教育利用の相関

(小学校教員523人)

尺度	年齢	性別 男性	学歴	職階	生成AI利用賛成度				生成AI利用の期待			
					生成AI 利用賛 成度	教師の 仕事効 率化	新たな 授業方 法、外 国人児 童への 活用	児童の 創作活 動への 活用	学習者 への全 体的期 待	AIの理 解促進 波及効 果	学習全 体への 波及効 果	教師の 働き方 改革
学習データ利活用賛成度	-.14	.05	.07	.09	.59	.46	.58	.50	.47	.41	.40	.44
小中学校での学習データ利活用	-.04	.05	.05	.08	.47	.35	.49	.41	.39	.35	.32	.36
当事者での学習データ利活用	-.15	.06	.05	.09	.49	.38	.51	.41	.37	.34	.30	.33
民間企業での学習データ利活用	-.15	.02	.05	.04	.45	.40	.42	.37	.36	.32	.29	.35
国での学習データ利活用	-.17	.01	.09	.07	.48	.40	.46	.41	.40	.32	.36	.37

データ利活用と生成AI受容は強く関連

# まとめ

- **教育データ利活用への教員の賛成は約7割と高く**，2022年から2025年の推移は安定
  - 教員，保護者とも，4パターンに分かれ，教員の方が受容に慎重
    - 受容型 (50%, 68%)，不信型 (10%, 8%)，個人活用期待型 (24%, 18%)，個人活用反対型 (15%, 5%)
- 生成AI活用の期待と懸念は併存．2024年から2025年の推移は小
  - 「**良い影響**」は26-23%と微減，「**批判的思考力育成**」は38-37%と変化なし
  - 「**悪い影響**」は38-41%と微増．「**自分で考えなくなる**」は71%から73%と微増
- 教師の生成AIの活用意欲には，**教師支援への期待や仕事の効率化が影響**
- データ利活用と生成AI受容は強く関連 ( $r_s = .59$ )<sup>29</sup>